

『映画 おっさんのパンツがなんだっていいじゃないか！』

作品概要

LINE マンガ、土ドラで社会的話題を集めた「おっパン」が、オリジナルストーリーで映画化！

【INTRODUCTION】

好きなものは好きでいい」でも、「好きでい続けること」は難しい……

「おっパン」ファミリーに立ちはだかる、新たな“アップデートタスク”とは？

今回の『劇場版』にも、絶賛アップデート中の主人公・誠を演じる原田泰造を始め、「おっパン」ファミリーが総登場！ ポーイズグループ推し活中の妻・美香を演じる富田靖子、メイクや可愛いモノ好きの高校生の息子・翔を演じる城桧吏、二次創作の BL 同人活動をしている大学生の娘・萌を演じる大原梓。愛犬カルロスが見守るなか、それぞれの「好き」を謳歌してきた、彼ら「沖田家」の面々に新たな“アップデートタスク”が立ちはだかる。もちろん、誠との友情関係により、彼をアップデートさせたゲイの大学生・大地を演じる中島颯太 (FANTASTICS)、大地も沖田家もカルロスもやさしく見守る大地の母・美穂子を演じる松下由樹、先輩・円を演じる東啓介も続投。紆余曲折の末、めでたくパートナーとなった大地と円のあいだにも、さらなる困難が襲い掛かる。

そして、萌が憧れるカリスマ編集者・鎌田を演じるトータス松本、誠に対して深い因縁がある元部下・佐藤を演じる曾田陵介、正社員となった美香の年下の上司に山崎紘菜など、映画のオリジナル・キャストが新たに参戦。ドラマ版から笑って泣ける「おっパン」ワールドを開花させてきた二宮崇監督の手によって、新たな疑問や難題を描いたストーリーが展開されていく。

【STORY】

ゲイの大学生・五十嵐大地 (中島颯太) との偶然の出会いによって、時代遅れの“昭和脳”から令和の価値観にアップデートしつつあった、「銀杏事務機器リース」の営業戦略室・室長・沖田誠 (原田泰造) 52 歳。ポーイズグループ「RANDOM」のオタ活のため、お弁当チェーン「QUQU 弁当」の店舗パートから本社勤務の正社員になった妻・美香 (富田靖子)。「大胸筋デカパイン」名義で、二次創作の BL 同人活動をしている、大学生の娘・萌 (大原梓)。そして、メイクや可愛いモノ好きである自分を解放し、不登校から復帰した高校生の息子・翔 (城桧吏)。誠にだけ懐かない飼犬のコーギー・カルロス (こまち)。そんなそれぞれの「好き」を謳歌する 4 人の家族関係が順調に見えていた。

ある日、アップデート以前の彼の直属の部下だった佐藤 (曾田陵介) が誠の取引先相手として現れる。新入社員時代、パワハラともいえる誠の度重なる言動によって、心を傷つけられ、退職していた佐藤は、誠らに対する不慣れによって、成立するはずだった契約を白紙にしてしまう。一方、大地は晴れてパートナーになった獣医学部時代の先輩・円 (東啓介) が九州の水族館からの応援要請に応じたため、寂しくも不安な日々を送ることに……。そんな遠距離婚の思いを紛らわせると同時に、九州への旅費を稼ぐため、ペット用品店「エルモッサ」でアルバイトを始める大地だったが、その店長は何と、佐藤だったのだ。

その後、誠が佐藤との関係性を修復しようとする中、主婦歴 20 年の新入社員として日々奮闘している美香も、自分より遥かに若い上司の堀田 (山崎紘菜) とのジェネレーションギャップに頭を悩ませていた。また、翔はかつて所属していた野球部の資金集めのため、再入部を決意して、同級生とともにチャリティイベントを企画。次のフェーズを目指す萌も、カリスマ編集者・鎌田 (トータス松本) の「コミックカーニバル」参加の SNS 投稿にプレッシャーを感じながら、野球部チャリティイベントで出会った野球少女をモデルに、コミカ用のオリジナル作品を手掛け始める。

それぞれの「好き」に暗雲が立ち込めながらも、大地の母・美穂子 (松下由樹) の「寂しいなって感じたら、ああ、やっぱり好きなんだなって思うことにしてる」という言葉通り「ひたむきに前を見続ける「おっパン」ファミリー。果たして、彼らはそれぞれのタスクを攻略し、更にアップデートさせることはできるのだろうか！？